

【 74 】

氏名	松 田 弘
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 5 7 0 号
学位授与の日付	昭和48年 9 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学 位 論 文 題 目	ヒトの胃，十二指腸潰瘍再生上皮の組織化学的電子顕微鏡的研究
論 文 審 査 委 員	教授 砂田輝武 教授 小川勝士 教授 妹尾左知丸

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

胃，十二指腸潰瘍の治癒過程は未だ不明な点が多い。そこでヒトの胃潰瘍68例，十二指腸潰瘍15例につき，その修復過程の再正上皮に主眼をおき，組織化学的，電顕的観察を行った。実験材料は手術時摘出した胃を再生上皮の脱落を防ぐため，ただちに固定した。Thick sectionはPAS, PAM, Alcianblue, Toluidine-blueにて染色して光顕にて観察した。

胃，十二指腸潰瘍では潰瘍底を潰瘍辺縁より中心に向て再生上皮が伸びながら修復され，一方辺縁に向て次第に葉状再生上皮へと移行している。再生上皮先端は約5 μ の小さな偏平な細胞よりなり，先端より10～15個辺縁によると核分裂像を呈する細胞がみられ，これは胃潰瘍に比して十二指腸潰瘍に多い。このことは再生上皮は分裂増殖して伸展して行くことを示している。この部の再生上皮は類円形の7～8 μ の小細胞で核が大きく，Mitochondriaはほとんどなく，Golgiの発育は悪い。Microvilliは太く短く胎生期の胃腺原細胞に類似している。さてこの再生上皮は次第に円柱状となり細胞内小器管も発達して正常の上皮へと移行している。

次に臨床症状よりみて治癒傾向の強い潰瘍と，再発を繰返した難治性潰瘍を比較してみた。すなわち前者では再生上皮の伸がよく，潰瘍底と密着して，頂上部に顆粒を持ち，まず安定した像を呈している。一方後者では上皮の伸びが短く，変性壊死に陥入った細胞が混在している。又潰瘍底との密着も悪い。

以上 ヒトの胃，十二指腸潰瘍の治癒は未分化再生上皮細胞が分裂しながら潰瘍中心に向て伸て潰瘍底を覆い一方周辺に行くにつれて細胞が成熟して粘膜が修復されることが観察できた。反，臨床症状と照合して再生上皮を観察した。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は，ヒトの胃，十二指腸潰瘍の修復過程を再生上皮に主眼をおいて，組織化学的，電顕

的に研究したものであるが、未だ不明な点の多い胃・十二指腸潰瘍の治癒過程について、とくに、未だ実施されなかった電顕による微細構造レベルでの研究を行なって重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。